

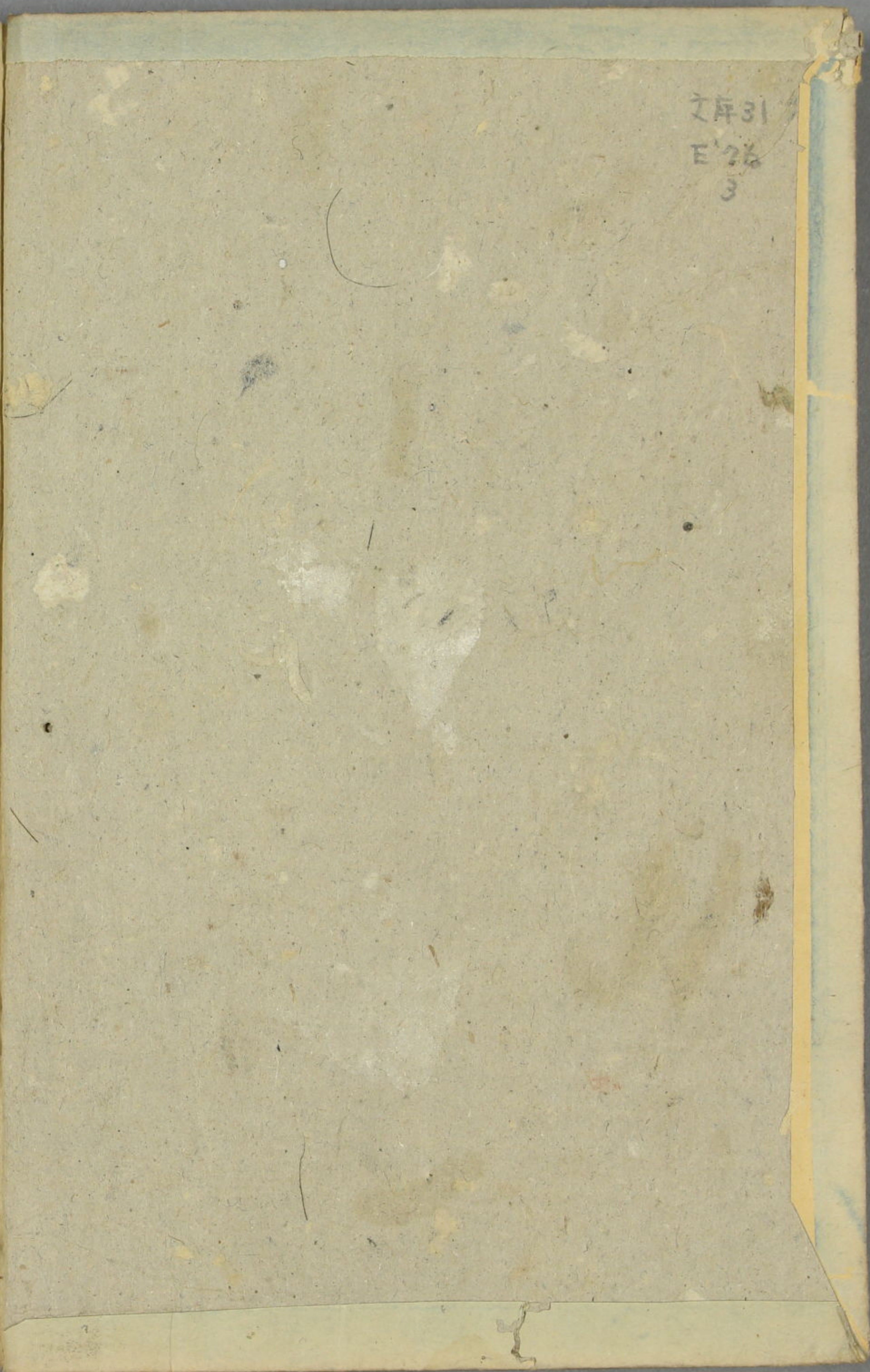
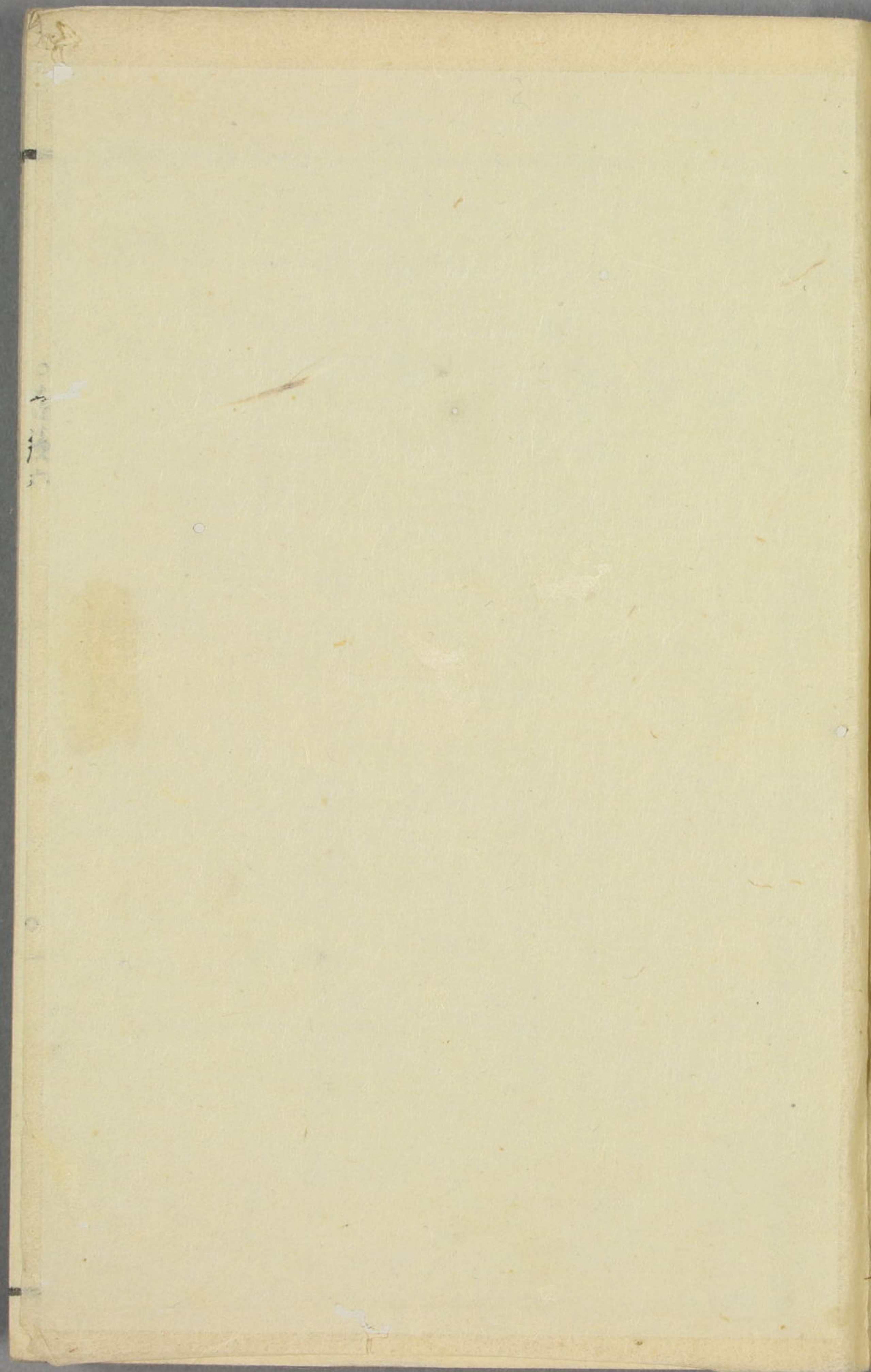
遠

鏡

六

雲英文庫
 文庫31
 E76
 3
 早稲田大学図書館





古今和歌集卷第十七巻後

雜歌上

歌上

よみ人しるは

ヨウリシ不彦をかくぬる天の門と後らきおれういのまづくら

○ワシガウへ、コレをカラあガフツテクルコ　コレナシテモ天ノ川ノ後ニ

船ノカイノキテアロカイ

思ふどち糸糸をりおをかりおきたまをーたおむをさる

○カウ心ノアフタドウレウチヨツテ居ルねハ 三 多ツテイヌルノガノコリ

オホイモノデサゴブルワイ

うとー紙をぬきつまむうー衣袂ゆふたそいそほしを

つらねーくやるるむきよりふくむふとあそーのそ

○コレハ白ノ綾ナレバナニモ色ガナウテ 鳥^カナイヤウニ思ハツシヤ^カデカ^カナゴザラウ

吾^カハトウカラキ根ヘキツウ^カ係イ心ガ^カデ濃ウ^カ漆テオイタ綾^カデゴザルモノヲ

いそのうこのおこみんがみやづくもをむしものかこ
りよこりあふりりゆるみ^カあをくふか^カり^カあ^カこま
はまりりも^カあ^カび^カひつ^カり^カと^カと^カよ^カて^カつ^カを
し^カも^カも

ぬ^カの^カま^カみ^カら

日^カれ^カを^カり^カや^カが^カわ^カる^カむ^カむ^カその^カか^カぬ^カり^カほ^カ里^カふ^カも^カら^カき^カり^カる^カ

○山上の由メグミハドコ^カモユキ^カワツテ^カテウ^カド^カ日^カノ^カ光^カノ^カド^カノ^カヤウ^カナ^カアレ^カタ^カ野

テモ^カリ^カケ^カヘ^カテ^カナ^カニ^カ照^カシ^カサ^カル^カを^カり^カナ^カバ^カ久^カり^カ引^カ籠^カテ^カゴ^カツ^カテ^カ沙^カ汰^カモ^カナ^カツ^カタ^カキ

根^カモ^カい^カ交^カ結^カ辯^カニ^カ作^カ付^カテ^カ穢^カニ^カか^カか^カニ^カタ^カウ^カイ^カマ^カツ^カ司^カか^カ及^カウ^カガ^カル

二條^カの^カき^カさ^カら^カの^カ東^カの^カみ^カや^カを^カむ^カむ^カあ^カし^カし^カる^カ時

い^カあ^カわ^カり^カし^カせ^カふ^カま^カし^カじ^カ経^カひ^カり^カ日^カよ^カあ^カる^カ

な^カり^カひ^カの^カ終^カ尾

大^カ系^カや^カを^カい^カね^カれ^カ山^カも^カり^カあ^カる^カと^カハ^カ神^カ代^カの^カす^カも^カお^カり^カひ^カ出^カり^カる^カ

○カヤウ^カニ^カ西^カ子^カ孫^カノ^カ故^カ系^カ氏^カノ^カ息^カ所^カノ^カ東^カ宮^カノ^カ母^カ儀^カト^カシ^カテ^カ清^カと^カ赤^カ訪^カノ^カア^カル^カナ^カレ^カバ

け^カ大^カ原^カ也^カノ^カ所^カ神^カモ^カカ^カナ^カ神^カ代^カニ^カ天^カ照^カ大^カ神^カノ^カ所^カ神^カへ^カ勅^カ定^カノ^カア^カラ^カモ^カラ^カレ^カタ

由^カテ^カモ^カ今^カ日^カコ^カリ^カ思^カ召^カ出^カサ^カレ^カ由^カ満^カ足^カニ^カ思^カ召^カス^カテ^カガ^カラ^カウ^カ け^カの^カ説^カ
あ^カけ^カら^カし

世^カ常^カの^カま^カい^カ雅^カと^カる^カま^カあ^カる^カ ゆ^カみ^カの^カゆ^カみ^カさ^カじ

天^カつ^カ風^カや^カの^カう^カら^カひ^カぢ^カあ^カき^カと^カら^カよ^カを^カと^カめ^カれ^カが^カし^カと^カら^カり^カむ

女はけつんそくしひん^ん せんきいありし

かゝらうそくしひん^んのそくまねをいひよめさばなりまじ

○女中タナメツタニワシヲ笑ハシヤルガ けり形コソ源山ノオクノ朽木ノ
ヤウニワシモ 花ニセウナラ心ハ花ニモナラウワサ

かゝらうそくしひん^んのそくまねをいひよめさばなりまじ
きんときせりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

きんときせりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

埒のそくしひん^んのそくまねをいひよめさばなりまじ

○ユズバオカリナメい夜ハ時をいナバウスハコサケレ屋ウツリガサテモア濃ウニ
ホヒスル^レカナ オクニナミホド感心致シテ 餘材^ニら^レチ^テナ^レシ

歌一うら

よみ人ちうど

おとくいづ^く月少もあうねわ^い川の山けりきりきりきり

○サテもくマアオウ^ル出^ル月^ノサ^レカ^ナ コ^レナ^レデ^モコ^チラ^テハ^レ根^ニ待^ツ色^ニア^リ
東ナ少アキラデモ山入ルラスカ皆惜^ムトスミス^トデコチ^ラエ^カテコ^ノデ^ガラ^ウ

○今夜はラバステ山テ月ヲ見バサテサヤカナ月テ見テ居バドコトモナ
ウおガナレウチツキテワレハモ心ガハサシ又い^ふを^をて^て山^ノ名

ふか^いり^るも^ふわ^いび^又あ^うも^かり^び不^にい^づも^あい^もあ^いて
あ^のま^はい^も月^ノ名^をば^らふ^おも^かり^らあ^いて^たぐ
ひ^らり^とだ^まく^をま^まて^いて^いる^おふ^より^のこ^し

あうぞうして月のうらやみふりてはけりてかきぞとてかきかき
○マダ見タラヌノ二月ノカクレルソノ山ノフモトデ見テ居レハ月入ル
山ノアキラウラへ行テサ又見タイワイ

こまたうのみをこれかりしきるともふまうりてやどり
ふくりてよゆしよほのこ物伊をきるふ土日は月も
かくれむむしあたるをりふみこまひくちちへ心さむむ
とあうまばよもゆるり

わらぬくふまごきも月れうらうらうのそやけていさばゆらむ
○アノ月ハダ見タラヌニキツウ早ウマアカクレルカナアノ月ノ後ル山ガ
ワキヘテテイニテ月ヲ入レテクレバヨイニカウテハ月ノアカリヤヤナイゾエ

田村のみらじのゆめふ新院デムツタふゆりり何きしきいのみこ
とくあやまち何りしてひて新院をたしきむじうと
そまうやふられがよめるあふ殿伝

大ニテ成てくゆく月しほりれぞやめくせどもゆりのきるふ
○ニヤラ照テイク月ガ陰イニ依テナボ雲ガタシテモヨウニテモ光キ共セヌワサテ
野ーらび
ふりて

○上モトカラノ心ハナボウテモワスレラヌモテヤヤ
いしの野中のちあぬるれど本はうらとあう人そくむ

○ムカシキヤイセウカチ水ガヤト云テ名ノ高木多世中ノ清水ハ今ハモウ

きぬ

こゝゆきの軽信

おいぬとせぬと我をとせえまじむおいむをぱりふふのばり物う

○我身ヲ年ガヨツ多ト云テモニラクニ思フ多クフ今日思フテ又ニ

ヨツ多ウレナイガヤカウ年ノヨレテ生テ居ズバ今日ノヤウナアリガタイ

ふニアハウモノカイ年ガヨツテ生テ井バコフせえまじの流石によし

凱歌

よみ人志し

ちりやがう治のそりもねとぼしどあつとよ思ふ年のいぬれバ

○一ウ治ノ橋守ヨホカノ人ヨリハ甚方ヲサオレハフビニ思フオレト

同ジヤウニ年ハ夕老人キヤト思ヘバサ

ふえんもえりくぬぬのほろ名の唯おつくよへぬ年

○一住ノ江ノ岸ナ松トモハオレが見キタウテモモウクシウナルガツヨリニ

始メカラハイカホド年ヲ持タコヤラ定テキウウ久シイデアラウ

伝名のみりのひえね人なむいづくよう経くくハマール物成

○住吉ノ岸ノ姫松ガ人間ナライカホド年ヲ持タト向テ見ヤウニ

持らつとへの少ねあうせりう百代りのひてたひとまねりむ

○一此破きノ松ハ最初ニ夕子ヲク時ニ定テコレカラ後万年も

オヒテ下思フテ時テオイタデアラウガハ昔イツ代ニ誰ガ為タコヤ

け小松ハたねちひさねをりまはけいばそハた馬と駒とのひ

猪をわのこ麻を麻よとのへんゆくのぼる古書よんゆ

けあわく人のそく橋本くすけがし

かくしついでとやつてさむむらぬ乃尾とよたてたるむらむらく小

○オレハヤウニ年バツカリヨツテ今迄何一ツコレゴトニシテシガシタヤ
モナイガモウハをリゲテ一生ハテムデアラウカ 高い山上アル松コリ何
スルーモナニ久ウアルナレ オレハ其松デモナクニサ

名系おきこりぞ

たきとくもさくくよとむむらぬのねむむらむらく小
○オレハヤウニキツウ年ガヨツテ今ダモウ向シコロアヒノ友モ子カラナイガ誰ヲマ
ア相手ニモウグ 山上ノ松ガ年久シイナドソモ昔カラ友デケレバ
相手ニナラヌモウ松ヨリ外ニオレガシラ井年(夕)ト下ナク 儂我ヲし

うみんふらむら

○オレハ海ノ沖ノホアヒ浮ク沫ヲウチ物デ消スニ有ガラドコモヨリツクモナイ

わさつこのかぎーよきせさふとのほめてつさあもらーぬ山

○浪ノ白ウタツクハトツト花ヤウニエエルガツデアラ浪ハ海ノ神様ノヒツリク
カガシヤトイフツレニア淡路島ヲコレカラ見バ アシマア其ツ白ナ浪デ
クルリツトトリハシテテムド草ヲシタヤウチ サテモスツナクニキチヤ

あつたの系よせらるる浪のまをくもえさうけりしおつた

○は玉津もあつたは浪ノサヨセルヤウスナド サクク面白イケニキカチ ドウ
ゾ度クモオテスタイトコロダヤ

なふはげしきやみものししはる衣あはれはくふたづつはる

○ハアレホガミチテ名サウチ 難波ノ

○夕々々嶋ニ鶴カトヒサワイデ鳴ラ

勢とくがいつこのあよはるる時ふやましくよりこえさうで

きてよまてつらききき 春糸あがぬき

考つ返思ひおきものほふさくはげのあもくもどはくしたふまき

○拙者ハキ指ラ思フテ忘レズニげとニテ

○る子テホウタレバコソハ

みナトニナリトモサレ

サテクキツイオカカギリデゴザル

かきり信たりしれは西のほね乃名ふすとまどまらほつもの

○一アノ高野溪ノ松ノ下云名ノ登リニリ 拙者ハトウカラキ指ラ思待トマツ

なふふふさうれりきりしりし

難波がとあつる玉彦をかりそめのおまをぞ我はわらぬべし

○難波ガタノ風景サテク面白サニ

玉彦ヲ菊ルゆ士ニサオレハナラウヤウニ思ハレル

ゆひをねるさくさく人のほをふゆをでるにまみ

はるはーききき みのたぐい糸

ほをさしつらつらつとくもねるのさる人まね茶あやとりあり

○住吉ヘゴサツテモシソコノゆ士ハ住ヨイ不テゴザルトニテキカス氏 必也居ハ

ニサツレヤルヤ住吉ハ左西ノ人ヲ志ルト云忘草ガハテアルトニ

なふくくすわりのうらと記は女けく時をわく
わひてよきる けいゆ記

あふよつたこの時をうふけはなよかたれぬ物をもかり

○雨ガフルニヨツテ 装ト云名ヲ和モウ思フテ け渡波ノ田装ノ時ヲ今日ト
ホツテテバ町ノ名ハ装ナレド名ニ身カ強レヌモテ 雨降ノ云ハアヌ物テボル
ほき西川ハルカアツバサレタ日ふおきオヨセアツバサレタたりたり日ほるふふたて
いしつろくを影くそよきせ時ひりく

わーたづのたぐららと吹風ふよをさうへぬ浪くもぞん
○川ハタニ白鶴ノ立テ居レラワレ風ガ吹テヨセタ浪ノカヲズテ少カトサヌカ
子枝をさうてわーららハ白き時と云ふまをけむの白きこ

いれくをい美葉くも白鶴くけり打ちのれ妻き考けり
中巻のみこ乃ぬけ波ふ形をつりてあらーをいあ
てあそびぐる日ほきをけらんふおきーはじたりりり
考りつろくぬりおきーまきいしをらるをさくふまきて
いそまきり 伊勢

水のくふうぬくの船のきうらバあそをぬりーいさゆー物をと
○君ガ 水ノ上ニウイテアル船テアラセラレウナラ コガ船泊リマス不デサゴサ
リニストト上テヨヨハハぬナリニセウモラ

かーいーいさふたあー まきんは解
みやこまでぬきかかーいーの浪のぬきげて風ぞひきき

少時ノ衣ヲ織テ着ヤウニ居ル長イ糸ナキ 出家ノ山ア牛ノ衣ニヨカワサテ
新フ口ハ向フで 湖ノ中ニ遊ビて居る也

いせ

多クらぬもぬきぬきしん下ノあき物とうふ心むめの布きしんむむ
○夕子モヌイモセヌ衣ヲ着タト云昔ノ仙人モ今ハ居モセヌニナシタニ
山姫ノアノヤウニ布ヲサラシテサツヤラ

朱雀院のみどり布リの湖ヨらんせむとてみむ月入る
多クらぬれ日かぎしししてありくあふさがしんくにさし
一ふせほひりふよめる ちづみめあがゆらし
ぬしらくてしせし布成たらばさふふてらくやりさらくさし

○ヌシモナウテサラシテアル布ヲオレガ物テハナケドヌシガナケレハ

オレガ心テタナバタニ借テ進セウカイ 今日ハセツキ夕子ヤニ
初めの山をりをわしをれたきをんてしめる

あつみ

あらたまる湖のうみ幸つりくるあふりしみききとららし
○夕キツテ落ルアノ湖ノミナカミガ久シクカツテ年ガヨツタサリナワイナ皆白髪ガ
カリテ黒イ筋ハスチモナイカウスハミナカリテ髪ニテギヤズエサウツテルカン

あつみ 湖をよめる みる子

風をけどともあらもうぬふきはみ成て落るあわぞみける
○雲ハ風ガフケハ雁キヨフウツテテオモチヤガ風ガフイテモ同ジ所ヲサラスニイウ

。幸溪六 十六

デモ同キウニアルア白イ雲ト又云ハ昔カラ居ル所ノありテサゴサルワイ

田村の伊時ふ女をうけがひあてし扇風の名
ゆらんしりふはあちほりりこころ ありあし
これを歌よそふあしこころ ぬふあちせし
けもばよめふ 二條の町

思ひとくふのうらみのなきまのやあつしはそれとまはすしぬ

○人ノ思ヒヲコラテ居リスル内ノ所ノヤウナキカリスル物デゴザリマスルガ
け給ハサヤウノ内ノ所ヤカ致シテ落トハスエスド 子カラ音ガ
扇風の終るをあり つらゆき
嘆きりし時よりほろちとてそは去るぬや色はつゆのり

○嘆ツメタ時カラシテハウキツビイテ世中ハイツクモ去チヤカシテ此花ハ
色ガジヤウチウオニチシヤ

扇風の名よりよも合をそし妙きき
ねとこものつて

かまてほろち山田のつねはこねておきこを後ま社のうきれば
○オレハ秋ガツライニヨツテ 一ニ けヤウニヒタクト後ヲ流シテ泣テサクラ
スワイ かりてふ雁とこをて下りの縁とをらし

古今和歌集卷第十八巻鏡

雜歌下

影あしび

よみ人しらん

世中ハカフ小うつひらふしつとく山まのよ乃國ぞりよハ瀬ふらふ

○世中デハ何カイツモカラヌ相チヤゾアカ花も川ヲ見ビ昨日デテ淵デアウタ

不ガサ 今日ハモウ浅イ瀬テ川ササウチヤヌキナニテモカラヌ物ト云ハナイ

いくすもわじふ方とあぞもかくらまのうらめふ思ひみでら

○モウ生テ居ルアヒダモ何ホドモアルイハチオラ 海士ノ川ル滯ルカシタヤウニ

ナゼニオレハア此ヤウニドウカウトイウニ苦勞ニ思ウコゾモウワヅ

カノるナレヤ ドウデモカウデモヨイコチヤニ

厚れくま家の船方をもとむのくありひつとせぬよの舟のうら

○一二 心ハレル時モナニ常住モゴノツキルト云コモナイハ世中ノツラサワイノ

小やたうひの船方

あつととそとむじうれさくふほあれまが歌もああり世中

○サウチヤト云テノガラレモセヌ世中チヤニナニツトネト ムツアハウイ

世中ヤト云テナゲカル、

かひのうまにゆらゝ時あへまわりのかりきとふ

はふーきき きのくちびら

あへまわりのかりとわくとサ國は供へしひてまうのが

アしほあらとらふちとまりはさるうしぬれども中ふ例ふ

たぐりそいぢふぬりてけ糸のひの何づひとこぼれ入ら
もざりしと糸傷ぬの河ちやもあふりてまかりてとらふと今
は糸とちりての河おほきとて糸ふすれかふるふすれかきいりぬの早
よ下にかいりびあらしとゆくとすめいとひらふと人ふととす
とりく一様何り例と考へてし然しなふまきぬと
みや二人いふととらふととらぬとぬふとぬふととらぬと
○モシ京ノ人がワシガウラ ドウヂヤト子タチラ 山ガサニギウヂウ雲
ハヌヤウニ心モハレヌキイハニ雅ヌニ思フテ居ルト云テトサレ
ゆんやのやととどでぬとぬのどらにありてあがこえ
よえいぞたけとやとひやれりうととらふととらぬと

すげわぐりの流るる

小中小町

るびぬもがをとうぬ糸の根を繰てまきとらぬとぬふととらぬと
○ワタニハモウウイツイ身デ 糸義ヲぬシテラリヌバ浮糸ノ根ガナ
ウテドチヘデモ水ノユク方ハサツヒテチヤウニ 流デモサツウテクルル人ガアラ
ウチラ ドツチヘナリヒ糸ヲアウトサ存ジマスル

野いんば

あつれてあつととらぬとぬのちととひとぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
○人ノアハレオイトシヤトヌテクルル河ガサウタテヤ 世中ヲエ思ヒハナレヌホガシ
チヤワイタツクニモサウヌテクルル人ガアルト 又ドウヤラステルモ沙リオホ

ウカツテサ

おぼろしくしての尻より

よもいへららば

ありてこそよきの紫どにゆくおのき成にさうまうさざりのりつて

○昔^四うゑしウセラテアハレアハレト云クビゴトニ海ガコボレルスレバツ

アハレアハレト云言ノ紫へ草ノ紫へオクヤウニオクおの海チヤワイ

そ中^一けうけつしきもつをぬくふまぶあふりのハ海ちりのけり

○世中ノウイノモツライノモ云テキカセモセヌノニツグ一^二番ニ知モノハ海チヤワイ

ふの中ハあううのううつとももあうともあうてなげともむ

○あ^三デアラウカ 正^{キウ}正^ウノう^ビデアラウカ ソウタイ世中ノハミナ^五アウテ

ナケレバ^三 正^三ノう^四ヂヤル 正^四ヂヤル トウモシレヌ

ふの中にびぐうあうのうてあつともあひわあうともあひ

○世中ニドドコニ我ガアルゾ人ト云モノハ昨日死ナウモシレスガ明日ニモ死ナ

バチキニ埋ミカ焼カニテヒバ 此^三ガハアツテモナイおチヤ ソレヲセフテ

又^四バア^四レトイウカ アニウイトイウカ サテもく人角ハハカナイおヂヤ

餘^三找^三レのうをちりしうさおやいとむしほくさる^三いたぢなり

山里ハりのうまびききししとらもそのうけりハもみよかりり

○山中ハおノサビニイノコソルケソレデモ世中ノウイノヨリハミテ住ヨクガルワイ

これたうのみと

ふやめのうまびきくわい^一く^二あふぶさうま^三みぬる^四まより^五とまき^六くれ

○西ノフダニ柳^一の^二ハヤウナ^三高山ノ^四峰^五テサへス^六ハカウ^七テ住^八テトホ^九ル世中^十テサ^{十一}ガルワイ

ゆるのゆまみち

あつふらひきつてもしくもの中へはのささねよれぞーくめ

○コレ世間ノ流 知テ居ラル、デモアラウガモシ知ラシヤフズバ 今ワガテキカスヲ

マテナリ也 此世ラバ早ウステサツシヤレテウド風ガ吹テ浪ノサワガシウキリニ

ウチヨセテクル荒イ海ノヤウチ世申テ アンドウモ彦付、マアンドノチラヌヤ

ウスチヤヅマ 。子秋、下白風吹て、ほぞささねぞくめ、しりふまゐ

そせん

づぐくふるきとびいしむんしをせおもひもまじぶづき

○世ヲステ、ドコニサ任ウヅタトヒヤニスナリ也山ニスナリ也 ヤツハリ

心ハサテヨウデアアラウト思ハル、ワイ

よみ人ーら

そやハひうーよりやうかりひあかひらのあふねれ

○ヨノ中ハ昔カラハをリニウイ世中デアワタカ 但シ又オレガオヒトリノタメ

ニハヤウニウイ世中ニナツタノカ 。子秋、ニの白ヤ、

よのめうはいつしよのまおとやあるうれをのあふ知ーつむ

○セケテ人カ^四アナウヤト云テ^一世中ヲ^ニイトウテ^三住山ノ草木チヤト

テヤラウイト云名ノ知、花ガ^五山へ咲タ

みーゆの心乃あういふ宿もぐなまのうき所はかたげふせむ

○吉野山ハズイブン流イ山チヤガオレガノヅミニハマダフフ吉野山ノアチラニ

空ガホシイモノチヤ世ノ中ノウイ時ノヒツコミドコロニセウニ

よふ心とびくさしとすされみうけ 雲のかけをふとあししてむ

○世るニカウシテ居ル 次カニウイツライゴバカリニシテクルニ一日モ早ウ

吉野ノ雜木ナクオクヘヒツコモラウケ ヤクイヤ世ノ中ヤ

いづれしむ心ちゆの中ふそぬばうはよのうれゆれはすこごん

○ドノヤウナ依イ山ノ中ニスダナラ 世るノウイゴカキコエテコエテアラウワ

とてうやうふいふの中ととふ皆とて思のたらしめれくあのも

あしゆき山の中とつあきくは 雲底の肉をりよふはらうん

わーびきの山のまゆくかられあむうき世中ハらるかひもなう

○山ノオクヘドコニテナリヒカクレウケ 山ノウイ世中ニ住テ居ルセモナイ

よのゆれをくふあきぬあく山乃のふふれしきやまなまし

○世中ノウイゴニアキ、ニタモウドコニナリヒ 四ユキグレニ奥山カク隠レウカラヌ

おあーらーあきさあ よのへのうん

そのうきえんしぬふけへりしむふあ人しをやどしるのらさ

○世ノ中ノウイゴラヌモはモセス山中へハイツテ住ウト思フニハドウモ

又ステラヌ人カアツテ フレニヤツナガレルワイ

山のあーのゆーき

元何内軒

よれそそふよつてく山よてもねやうね所ハいづちゆんじ

○山坊松モ山ニオスマヒチヤガ ソウタイ世カウイトニテステレニウテ山ハイツ

文人ガ山ニスデモソレデモゴヤツハリウイ時ニハドチヘイクイザヤらんマセヌ

おきひりつめいしきおきこころてよめ

今さふほむいづしむ非ぬまのうぬやーきさよまはひや

○け子ハニア イサラナゼニ生レテキターヤラ 何ニラケテモハヤウニ
ウイノヲノオホイ世チヤトハヒラヌカヤイ

歌よん

うみんちん

よにぬればこの際ちげき苦作のうきやーにきりどろく

○世ニアレバ ナシノカイト人ニイワく 三ウイヲヲイハル、^三ガ多ウテサ其
夜ゴトニ うぐひせ 注キマス

。ふ秋云、姑、白、雲、の、う、く、
う、ど、か、く、し、り、ま、さ、く、

あふもろいぬまふとわぬ井のよのほふあふらうぬぞら

○ワハホテモナシキテモナイ竹ノヤウデトナラモフカヌおニナルデアノウヤウニ思ハル、

うぐのふくくあう門のこらおくさあ

うが方かうぐたよのうきし秋きう人ハたりてくまじか

○ナシラナ身ハ ^ウウサくサテモウイ世中カカト秋イテソニテ人ハニマテ世

中カ悲シウ思フテヤラレルガ ^ハヤウニ世中ノウイハ 我オカラノイテユアラレ

人ハツヤウニモアレニ ^下トウニテ人ハニマテカナウ思フテヤラル、^ハヤラ

備材にたり

おきのおおぬがされてはりるけふら

たうむの船

おひきやむらのうれふおらうて海士の縄とぎいまりとむ

○きイ井ナカ別レテ来テ居テハヤウニオチブレテ 桶作丸ノスルゴトヲマセウトハ
思フタカイ思ヒモヨラナダリキヤ <sup>。ふ秋云、ま、さ、き、ハ、繩、の、う、ぐ、ハ、綱、繩、の、繩、を、ま、さ、く、
わ、く、ま、さ、な、る、を、な、ら、り、し、る、こ、と、を、い、ひ、り、</sup>

とさめは中ふあひふる里うねびりりものぞねむじあ

○此里六月ノ中ニエテアルトトニヌル桂ノ里デゴサリマスレバ ヒタスラアチタ極ノ

光ヲササキニ波ニセウト存ジスルワタタ 后をば戻したまふこと

まのどーさざらものもけふまわりりる時ふうぬのをれ

むけをむじり 今日山かトリレト りやむいぢれアキる時ふあかーふ

やありわりきて夜をさまでえさざりればきーら

なりのののね

今ぞあふらーれめのし人すのひ里をばうまひをよべりりり

○人ヲマツハナニギナ物ガヤトエーヲ 今日サ始テ知リマシタ コナバソウタイ

ミヲ待テ居ル所ハバサタラセズニ早ウイテヤルキーデゴガルワイノ

こまあうれみこのもやふまかりうよひら 秋王 波かーらあ

わしておやしりふあふゆらに ナヒラ 心月ふとやーり

とて海うらなるときに カヤバ 望えの山れあもとねりればき

いしうーアーりあひてかの 庭室 けりふまうりいり

てをぐみりふつあーいーいあねーくてかへ

アまうできてようこおくりとめ

わさねてを 長 うとと 母 あひまや ち ちみ 分 分て あ と あ じとハ

○原イ雪ヲフミワケテ トホイ山里へ系ッテ 君ニ清目ニカ、リマセウトハ

存ジシタカイ 存ジモヨリマセナダテゴザリマス ソチタへ 山 終リナサシタ

ヲヲフトワスレテハ コレハア夏デハナカツタカトサ 存ジマスル

你茶の里ふらみゆりてふまうでくところこ
らりりふふよみておくりき

きとしてまみあー里といでいふいふは
○年久しう住キタウタ此里ヲデ、インダナラ タバサへ你茶ノ里ガヤニ
イヨくアテテ草ノフカイ野ニナルデカナゴザラウ

かーし よしんをん

中々ねーぶーとて年ハそぢふはふやハさぎしむ
○サイナアハ里ガ中ニウタナラ ワ六鶴ト目ジャウ泣テ月日ヲクテステゴザラ
ウニモウコレカラ オマヘモテチヨットモぬ出ササイ内レウケニカエソヤアニマ
リデゴザリマズエ かり少々、話と替りふとりふよせり。

野らび

歌を君らふもの浦小るーうぶう 地めとららののらまらりふき
○オマヘガワタシラ ナデモナイモノニサワテ ^{ミウタ}ウニニアフタユニソデワクニハハ雅
波ノ三津さへホウテ尼ニナリマタ 雅波浦・三津・海布・海土とて
けあハあふくむーしをところををうぬのをとこと
もどまりふりねば波のうのちふまかりてらふふ
らりてよみそをさふつういりきるとさむい
かむし
なふそがしーむきまもあやむいづらとらの海さうはらう
○ワシハツノヤウニツナタニ眼ミラルヤウナナニモ見えエナイニ いらマアソクニヒフテ

尾六ナリヤツタツイ 浦をえぶきくもあきふりづまのあをえ
 くるぞとてしをのてあをたむるとりひづとてつたを
 ほくづしきとあろるひづとてつたのあをその方
 のしをてあのをふいわけひをよくあたまをいませむじ
 よあまこいねくらるべきともあぢいあををねてしりあを
 今きふとあを人もあぢいあををいせむじして門をせりて
 ○子供ヨアノ業内カアルカウエテヤレ 今ニナリマシテウめ下サレサウナ西方ハ
 見えガゴガラマ 何方内ハイモシゲツタ降デトチテ門ヲサシテゴサルニ
 ヨツテアケラセトエテイナセヨ 何方内ハイモシゲツタ降デトチテ門ヲサシテゴサルニ
 友もあぢいあをのあをいせむじして門をせりて

つりいーき

こつ

あのかのふあやまのまのうねあのうきとあれや根と絶てこぬ
 ○上 ナゾはガヲフツクニ思たまがゴサルカニテ 追ひハトト打絶テ出ガ
 ゴガラマ ケシカラヌオミカキリデゴサル
 人をとてえううをけるをふらひうーとまねいあ
 あいハ一やふらひてうわさぞやーかぶさ
 身をすていあやふりあすりほろあろあものいむまりりり
 ○オウラミをエテガサル 拙者モエカト様ナイハヒトリマギレテ 存ジナガラ久シウ
 心外ニ心を沙汰ヲ被シタ 下 身オナカラ心ニ思フヤウニハナフ又物デゴサルワイ
 身ハ我オナバドウナリト我心次オニナルハズデゴサルニ 心ニ思フヤウニナラヌノハ

とび人のとむびをどいふるまふ歌きとては終はるぞす

○此家ナシフナ人住ヤウチ家チヤガトスバソシテスミ歌キソフ終ノ事ガサレ

とてのそふまうづるふるまの事ふやどれりやふ

とてとよめん
二條

人少の里といひてこゝかぢもねらのみやう記あるり

○系ハ人ウシラフルイ物ニシテスミテタチヤヨウタイヤニ思フテ出テキタケレ

此奈良ノ歌モフルサト、チレバ同ジクフルイ物ニ思ハレルワライ名チヤワイ

歌きとて
よみ人あし

よの中ハつづきうはしてこらあしむいふ事をもとやとてまじ

○モゴト是チイハ世中チハイツクドノ家ガコレトステ定ニツタワガ家デアラウケ

定ニツタワハナイドコデアラウガイキトツタ所ヲサオハ家チヤトシテ居ル

意匠のありしれ風いきり色どゆくへる孫はとびつぞぬふ

○け相坂山キウウ嵐ガフイテ夜ハ寒イケレ所ヲカヘテドコヘイタト云ニモサキ

ガ又トヤウニアラウヤラヒ子バチキナガラモシバウシテコニサカウテ麻でマル

風のうきふりやうさむぬらるのオハゆくもやびらうぬづら

○ドコトスナシニ風ヲキアゲシテアルク塵ノヤウナハシテモナイハオハテウド

ソノ塵ノヤウニユクサキハドコヘドウナウテユカウヤラヒシヌヤウニ思ハレル

家とらうとてよめ
仔細

花を川ちらうもあぬおおもせようりゆくおろぞうり

○アスカ川ノ淵コソはニカル物ヲトケ及ニテ居レソノ花を川ノ淵テモ

ナイワカ家モ不使合サ時を以ニテハ 漸ニカハツテユクおチヤワイ
漸ニト云ノハツレアノオアシイサガテニカエ

つくふはりるあままりをひつごうちりるの日に
不ふゆりまうできてきりる紀友引

あつはつんーともゆいびをのくまのくらしあどきーかりり

○京ハあつナガラ文シフリデモドツテ足ニスレバ けりモキウウモヤウガカハツテ
先年ノヤウニモナウテニラヌあへネツタヤウニコサルソユキも根ト毎夜
基ヲおテけりモ忘テ面白ウクラシタ けり汗ガサ ぬシウゴザルワイナ
女どもぞらーおがーりーしてあわれで悔ふはり
りーりらふ みららのとく

あつはつりー神の中へもふけむとがなるーいのちきこころちすり

○ワシガタミシヒ、オノコリオホウ存ジテ別ニシタオニヘノ袖ノ中ヘハイツテ
アナタニトツテアルカ存ジセヌ サウカシテ アナタカラゆリシテカラ
トツトワレハオニヘノコバカリ思フテウかくト被シテタマシヒガコニハナイ
ヤウナコロモチデゴザリマス

寛平伊勢小も終るーの判官任らん小先されてゆり
けり所小奈まのまがひよてをのこどもさけはうべり
ついでふふみゆりる ぬらりるはあどき

なま井のよきまうふ初おのちきわてものをうすあつな
○い五はる夜ハもシ竹ノウヘハヤ初おモオイテ寒イニ森モセスニオキテ

テ久シク鳴ク

本海舟の伝信材とあり

コトシクシク鳴ク時ちのべとてぬるるゆくふあぬぬとてむ家

○人ハドウナラヤラ 三 ヲクサキノシレヌモナバ 後ニモシ人ニ忘レラタ時ニ

ロラヌテ思ヒタセト思ウテサハをリニ扱ヲカイテ手紙ヲノコシテオキニス

貞観時付分茶集ハ イワレランニ 何んやのあつしきと

りどバ イワレランニ 何んやのあつしきと

かしの月時あつしきと イワレランニ 何んやのあつしきと

○ 上 五 コハ奈良ノ官ノ内時代ノ古イ書デゴザリニス 又奈良ノ官ノ

内時代ニ古カラ集ヌ十ニス集ガサ 五 石茶集デゴザリニス

なりの茶集名ふとハ橘の茶集名ふつきて イワレランニ 何んやのあつしきと

きわつちふと イワレランニ 何んやのあつしきと

寛平内付 イワレランニ 何んやのあつしきと

大に千里

わ イワレランニ 何んやのあつしきと

○昔人ハハミナ立才後スニ 一 一人オクシテニ イワレランニ 何んやのあつしきと

スバ 誰モ申上テトサレ人ガ イワレランニ 何んやのあつしきと

何んやのあつしきと

人ちれど イワレランニ 何んやのあつしきと

○人ハイハズニ我を イワレランニ 何んやのあつしきと

上ノ目ニモ見エヨカシ イワレランニ 何んやのあつしきと

うと先しきふふなむとてよみておくらふうとま
てたてゆつりける 伊勢

山川のまふのしきくりにあまをみをとやあかするよしもがな

○伊所のゆりハ モウタ今テハ 一 高ニハカリウケタハツテヲリニシ

テ ウチタエテ上リニスルモゴザリニセヌガ ドウソニハカタ宮ツカへ段シテヲリ

ニシタホリノオデ今モホツテ見ニタイチヤト存ジニスル

古今和歌集卷第十九巻尾

雜舛

短歌

野一らぞ

よみ人一らび

つふもの	まねたるあふ	ありひそめ	こころあつみふ
あふぐれ	もろとたれ多く	ゆきの神の	りえつ <small>ヒヤクホ</small>
思ふこと	あふしあかし	あふしもの	人をうしむ
こころこの	あまをふらそそ	ありひて	ありひかへし
つづふ	たうぬづい	ゆくあめ	さあはゆまく
かくねふ	思ひふれて	ゆきさる	ふらねがぬづく

ありへども ボングノオナレハ えぶのあられが 多ややぶげ 思ひはふり
 あー川の 山 山とこち乃 こがくれて あきりん 心と
 ぬれよも あひ あひとつむ 名小いでバ 人 ありぬべこ
 とみぞあめ ゆ ちぶよぬれバ お ちりわて アハレ ちりくし
 めげきつり せん せんぢるふ 座 座ふおく とら ちりへを
 ちらふへの 衣 衣乃とてふ お ちの き ちりぬづく
 ありんども 相 相あけられぬ ま まがもみ い いとふもふ
 いらぬと 思 思くを

ゆづういさういさのめくらくのそのなぐうい

けい申き

ちちやぬ 律 律のち代り く くと牛の い いくもてを
 あがえの ま ま相乃やまの ま まがも 思 思ひをぬて
 ささづねの そ そともぢらふ さ さよふけ 山 山やとぎん
 ぬくとも も もれもゆあて か かみき あ ありこのふれ
 おふむを 足 足てのしあぶ け けみづき あ ちりくして
 冬は雪の 座 座ももぢらふ う うとち乃 相 相きんく
 ことしふ と とはまつけ あ ありとてふ 山 山とぬひて
 君をのこ あ 代よといふ せ せ乃人の 思 思ひするがめ
 ぶどの糸 り りゆら思ひも あ ちりて あ ちりて
 ぬらぶらも あ ちりくも

きりぎりき	今ハ世ハ	ちうけれバ	まハ唐ノ
たなむき	なハうつき	おきそじ	秋ハ雨多ク
神をかし	あハおまご	せんし向	かろむじき
カキミ	つもの年と	あろきま	いつのむつふ
あひまはり	これよそま	ここのの	おいのびさ
ヨクイナツル	カハヤ	といたうき	あいのくし
やよりねぎ	なごの橋	ぬぐうて	あふみの浦
か	あふのちま	おひま	さすふのち
しつばの	こはま	あハヤ	かハらちり
そ	おこのの	あふ	おいそ
あつね	おこのの	あふ	おいそ

くもりとが 夫がハハ代を つらえつてんむ

やよきまづ今のせれふ物のみまきとよけいもよハハ
 こまじうきいと餘計なごの字まうもはもめれどほまあじ
 右まあまじ竹枝より佛を石の夜と都ももじよまいとよ
 とやと畧まうじやよりまを 弥過まじのう流ひがこまの
 こまのうまじもわハハ又おまままままままままままま
 夫が代ふりまほ心のいとあこめれまらまのひけらうな

○カヤウナアリガタイ君ハ世ニアウサモアルモアラ今マデハタハヒタスラ
 ウツモレテ居ルトバツカリ思フタアヨアハウナアカナ

冬のおがら
 元河内躬恒

ちもやぶ　　井も月とや　　けさより　　くもりもらぶ
 うらちぶき　　お祭とゆふ　　あさきの　　しれいふ
 山あし　　まきく口ふ　　おりゆけ　　おのそまて
 あきちし　　あきみぶ　　おこりり　　やうま
 庭の面　　むく　　あきさ乃　　うぶあり
 あし香の　　つりりて　　わらわ　　まてあま
 をぐ　　つるか

七條后うせほひらのちおよみき

伊勢

おき月　　あれの　　まのうら　　ひてまじ

いせのゆき　　おみ　　うち　　まむか
 うら　　後のりら　　くれ　　これ
 町　　秋のま　　む　　かの
 くれ　　れむ　　なり　　あ
 む　　ま　　む　　な
 門　　あ　　よ

旋頭歌

おらび

よみ人

うら　　は　　を　　ら　　か　　ら　　よ　　お　　ま　　き　　ひ　　れ　　そ　　の　　を　　ふ　　ち　　り　　く　　ま　　ら　　
 ち　　た　　ふ　　の　　た　　ぞ　　も

誹諧歌

新うらじ

よみ人しらす

梅をうつよしそ花つもさうぶひまのくらくらひまのひらひらとささ

○梅をうつよしそ花つもさうぶひまのくらくらひまのひらひらとささ
クル人がクルト鳴テ人オモルコイヤガツテマア居ル

素性法師

山吹の花わりじりもぬしやふれどどこどこどこちりあはして

○け山吹ノ花ノ色ノ衣ハヌニハ催レギヤトよだへんじセヌ山吹ハ梅子
ノ色デロガナイニヨワテサ

友原敏行 梅屋

いづくにこれ田をつられはらほどぎいそでの田をを新めくようぶ

○トホドノ田ヲ作ルトテ時モアヤウニシデノタラサヲ毎朝クヨブゾ

七月ふらなむしめころりとよまころり

友原の縁をもと

いづらとまてくをともばふらげて云の川系をりつや海しむ

○今日ハ六日ナレバ天ノ川ハ明日ワタルヤケレ牽牛ガハイツカクト待トカ
子テ居ル心ヲ織女ニエセウタタニ今日渡ラウカシラヌ

人小助とかくと取ハアスきくしはたの清小をばあぐとらふとの
まーあぐしはは日記小いっもまてまてはあぐてはあぐびららんと
アセむたふ七日小後るべきを六日に海へんといふてて寝をか

げて海にこそかひたりぬのこくをなれんをよき海にびやくは

秋のそら

丸の内、躬恒

むつじもまきごつきまふあけぬきつづく秋のそらよよハ

○ムウゴトモマダ皆マデエ云ハヌノニハヤ夜ガアケル極子チヤ 秋ノ夜ノキイ
ト云ハドコガキイヅ

偽正遍昭

秋のせふらまゆきなてく女所をあるかーかまーかもむくき

○秋ノ世ニアノヤウニ女ニ花ガ大セイチヤラクラト云テ立テ居ルガア、ヤカ
マシヤアノヤウニ花ヤカナモ一サカリノワツカノルノチヤ オツケニホテア母
シイ物ニチルトラバヒラスニア、

よみ人あしび

秋のれはせふたりくをみえいつものくはすくき

○秋ニハ世ヘニジヤラツイテ居ル女ヲ花ヲ来テスル人ハ誰デモツメツテ
タムルツメツテ又者チイ つむと花と摘をうみり。

秋のものをれてくはせ女所を花れまきくをんくは

○身ガハレタリクモツタリスバ 女所花ノウツクシイ邊ガサエテカリカケリスル
法ウカケこのかひにほてよむし。 餅材抄はせふらわー

どとんてをくむとそればあかをもうけくをのなまよき

○女所を花チヤト思フテ折ラトスバ 女所ト云名ハヒヨチ名デコソアレ
ドウモ女所ニ手ヲカケテ折ラハスミイ 餅材抄はせふらわー

のほろりおどすて雅をそとくふまはれまのめかつひて中
小物どやして丸ひらふまふ遠よしくまふふおれ文ふすまの
用ひらやうを代の例よりとひ合をてよく考へてまふ

定まぬまのふれま合はら まふむひやま

秋風よほろりびぬし花をまふつてまさせまきりぐをぬく

○夜袴が秋風テホコロビサウナ ソホコロビラツクリサセトミテキルぐスガ

わをまふくむじらる日ぬりはまのこより風のまこ
吹こーきりこつてまのまよりへまてきーら

まよりのやちやち

まろくまのまろりれをぬくば中垣よりを花はちりりけれ

○マダ冬ナレドモウ明日春ガタツ今日デ 近イ春ノトナリキヤニヨツ

テサカヒノ垣ノウヘカラサソノ春ノ花ガチツテクルワイ

花ーらぬ よもくーらぬ

まのろくぬりおーまの沖まびてまはれまはらを祓くまつ

○いデモ年久シウナレハ神ノヤウニ性ガヘルモノヤガオレガま年久シウナツ

タユエ 性ガ入ッテ ソノまガタハッテオレハサ 夜ルモエ子ムラヌ

松より路よりまのせえらまをむくこぬまをまふまふをぬ

○オレハ夜ル子テ居ルニ 枕ノ方カラモ跡ノ方カラモ 西方カラニキリニ 玄ト云

鬼メガセメヨセテクルニヨツテ 跡ヘモヨラレズサキヘモヨラレズドウモシヤウガ

ナサニ床々ニ中ニサチツト記テ居ル まふハ似どーしとて

きの光のや

ゆりの夜のうゝぬ思ひよりえはりえゆくふきさぬむき一終と

○か来^ニ支^ニ終^フ思^ヒ云^子ノモ^エル^ハキ^ツウ^苦シ^イケ^レハ^ハド^ウモ^セウ^一ガ^ナイ^モエ^ルナ^ラ

モ^エヨ^サ 富^士山^ノ林^松サ^ヘエ^出涌^シサ^レイ^デジ^ヤウ^チウ^思ヒ^ノ煙^ニモ^エサ^ツシ^ヤ

ル^モノ^ヲ人^ノハ^ツノ^ハズ^ノイ^キヤ[、]初^ハハ^ハの^白つ^ぎて^あの^の終^とり^まと

きのありとも

けひんま^くほ^ーハ^ねう^くあ^まし^くん^ぶき^かつ^しま^とひ^しと^まれ

○ア^ヒク^イト^思フ^心ハ^腹一^ハイ^アリ^ナガ^ラモ[、]も^くニ^アヒ^ル手^ガリ^ガサ^ニド^ウシ^タ

ラ^ヨカ^ロカ^カウ^シタ^ラヨ^カロ^カト^イワ^くニ^心ガ^サマ^ヨウ^ワイ^ソレ^ヲ夜^ル月^ヤ星^ノ一^ニノ

星^六夕^ニ下^アリ^ナガ^ラモ^月ガ^ナイ^右テ^ラウ^テ及^ニヨ^ラト^トニ^タカ^カ飾^端デ^ガル

小世小町

んふあ^まむ^つま^のあ^まふ^いひ^もそ^むひ^もし^りあ^ふん^やけ^をつ^と

○思^フ人^ニア^ヒル^寄付^ノナ^イ夜^ハ、^こも^人ヲ^思フ^思ハ^カ火^ハシ^ヤウ^ニシ^ツテ^胸カ^モ

エ^テエ^麻ズ^ニ起^テ居^ルニ^の句^よく^ねい^くあ^らわ^しま^りし^まり^どハ

よ^を写^し一^張ま^りし^まり^しま^りニ^の句^ハ月^のま^きと^ねハ^月を^思ひ^てこ^のよ

烟^のう^らそ^へ又^おま^そて^小城^をと^りて^この^一ア^火と^らり^ア 餘^材ふ^か

初^てより^思ひ^おま^そて^はし^るこ^の思^ひと^はは^なさ^ひて^おて^ある^く

空をよみしよのまのあふれ

ま^のあ^ふれ^はら^びく^せび^のう^らむ^もり^んそ^ーが^あん^もつ^ひあ^い

○モ^シカ^フ人^ガウ^ムカ^ドウ^ギヤ[、]春^ノ世^ヘニ^シ君^来ニ^アチ^ツテ^スシ^タイ^セギ^ヤ

着菜ハ准デモツム物ヂヤワサテツツレテスタイトハツタテスタイトエーヤブエ
恙菜といふをサツル人のあきをサツルといふをいふし。いふはあ。

即ちらば

よみんあはれ

思ふに、わらうとぬれぬをがさしからぬ山乃ぬじとあり人を
○ワシガ思フ人ハキツイ性ワルナレバ方々へカ、リアルイテテウドモノ
庭ノドコ山へモカシヨ山へモカ、ラヌアハナイヤウナモテアラウト思へバ
思ヒナガラモヤツハリウトく、シイ心おカスル

平ノ貝文

まそのゆれ志つものまはふのつまひふとびより維のわらうとぞさく

○一三 〇レハ女ヲ思フ思ヒガレケウテ 田 小口トサ泣ニス

上白ハそのゆれ志つものまはふのつまひふとびより維のわらうとぞさく
しつぎにふとびより。あすよ草のまはふのつまひふとびより。

きのよーむ

秋のゆふ妻あつと麻の年ととくくろをさつとさのあひよとぞさく

○毎年く 秋ノ野テ妻ノアリモセヌ麻ガあまカヒヨクトサチガ アレハ
ドウシタノヤゾ 妻ニアフタラバコソ 志ノカヒガアルトハ鳴ウナレ 妻ノナイニ
志ノカヒヨト鳴ウナレナイニ けあトウのてふをしのゆたなぞとて
あのみふとびし。又何のまの志ニれまの維ふとびよとつめんやと

女は縁

掬りぬれひくふくもたあねらあまらにぬきもあはらぬ

○思フくト云ノモツレガリヲ思フナレヤあつこきをツレテヨイガいでやイヤモウ面白ウ
ナイ、こゝろハ大座テサ、引キガ多クバドウモ

○あぢ思ふんをぢもゝぬひくふやうがぢよんのおを思ふぬ
○ワシラ思フテクレル人ヲコキカラワシカ思フテヤラヌ、ムタイカシテ、ワシガ

思フ人が、ワシラスツキリ思フテクレヌ

一ト、ぬうやぢ

思ひつゝ人々をどよふと、まゝ一箇もやひくいなかりりやを

○二ハカタ誰ゾオレヲ思フ人ガアツタデアランニニも時ニコキカラモ其人ヲ思フテヤレ
バサヨカツタニコキカラハ思ハナシテソノタイガキテ、今テオレガ思フスカオレヲ思フテ
クレヌアまのこゝろアラソシヌヤノタイトヌ、ハナイコカイキツトアルトギヤワイノ

一ト、よも人あゝん

物くゆうむくをどよふと、まゝ一箇もやひくいなかりりやを
○出テイナウトスル人ヲドウモ思フカガナイニ、ドウゾ今、近所薄テタナリト
クサラスレバヨイニ、エ、カウムトキニクサタラスル人モナイトカナ

くまぢあふとめし、おぢあぢんとあゝふいづつ、こゝろ
○源ウ思フクモドウモおれニハナラヌ、こゝろアイトクレバドノヤウニ源カツタ
心テモカハルギヤ、おぢあぢふいづつをめて、おれとそとこゝろ。

いしづゝあぢあぢのゆるめやぢぐひづて、ふもぢあぢすてつゝ
○人ニキラル、ワシガ身ハ春ノ駒カシテ、テウドまをノコロ約ヲぢ飼ガテラニチ
シテヤツテカハスニオクヤウニ、ワシラ思ステ、子カラカハヌ

うづまのいづのやうのあすもあまのついでに

○ワシニ人ノウレナイノ 一フルイ物ニシテニウテノカヒラヌ

上ニるはなほ河のつげのこへおすふゆすのふくとらふはし

さつしらすふあそんすのうれ紫のまぶさおとさひしりぬ

○オレモ夏ノるハイシコサウニ暑イニヨツテ独居ラスルト人ナニニテマギラカ

シテオケル 冬ニサウテハヤウニ寒イ夜独居ルハ何トモ云ヤウガナイ

平中興

まきゆの今いづうふまりぬれおふくらでいつきぬりらふ

○逢ふモモウ今デハハツクナコトニウテ世カ更テカエテサバもサリヤク

カデケヌワイ 此のちねまじりつふとつてボクふまりぬまを

月のかききすしれ河のまそせ方のふなりまのまふかりらふ

たのむいすうらまきこ

りぬあーのよりせ山よりのりともなれむと思ふああしくふ

○吉野山ハ対外海山チヤケレ厄日本吉野山ハオロカナ一タトヒンチカ唐天

竺ノ吉野山オクヘモツタトエテモ我ハも今ニシテ政ニ沙ッテ居ヤウ

トハ思ハヌ ドコニテモアトラシタウテオツカケテユカウトサ思フ

なよりまき

まきもぬあさまの山れあさまや人のらん成見てこそまきあめ

○何ゾもニイラヌコガキテ ワシをうらやラ止ウト思フナラ 下コチノ心ヲトツ

クリトん定メテも上デヨヤメルナラヤンカヨイ 上ヤノカッテアル山ノヤウナ

モノデコチノ心バドウチヤヤラ知レハスマイニカルクシウモウラ止タノハア
アズリケレカラヌキモノツブレタノヤノ 人ハあてらるゝのてふふん
ハ得ク、悔秋結句のてふと湯の流ハはらおすはきすの流はらし。

伊勢

難波うらなぐのいもつらあり今ハあををらあつたてひ

○今迄ハらデモフルウナツテニウタヲバ 難波ノ名柄ノ格ニタトヘタチヤカ其
名柄、格モ 今迄新シウ策チヤ スレヤハヤウニ人ニアカレテ四イモノニ
ナツテニウタワシガオラバモウ今デハ何ニタトエツツ 何ニモトヘル物モナイ
よみ人あ〜んぞ

まふんあまじなふぞハドウキくかすかやのみぞれてあれどあきくもほ

○オレハ陰分実^{ゴイ}神^{カク}ニ堅^ウウオヲ持ッケレレ 何ニエーガアルゾ ソレデモナニ
ニモチーハナイ 世^カノ人ハ妬^カタ萱^{カヤ}ノ乱^レタヤウニ乱^レテハウラツナ者モアレ
ドソレデモサノミワレイモナイ スレヤ実^カ神^カニタニナムブンガツニチヤ

あまじうせ

何うその名れ〜のを〜か〜きありてまどふら〜りか〜

○ナラソノ名ノタツツガラシカラウ 志^カラスレバ名ガタツトシリナガラ迷^トフノハ
オレヒトリカ オレバカリチヤナイ皆サウチヤ

ソケガアルト

は細女の名ハ〜もが〜と〜男の〜と〜ひ〜き〜
〜と〜或人の〜の〜の〜

てはさしゆぬしとさしと^イに^ト依^ルる^ルに^テ例^シ考^テ
知^ルし^ル。餘^材は^何の^事と^得る^ルか[。]と^も思^はれ^ル。

くそ

よそちぎ^ル。あ^かい^のよ^りし^をた^づつ^りふ^くば^りし[。]
○ソ^ノト^コト^ハワ^シヤ^後ニ^モシ^ラス[。]ス^レヤ^ソヤ^ウニ^ワガ^イト^コガ^ワニ^モシ^ラス[。]ヤ^ウニ^バカ^リギ^ヤン^レガ[。]
ヨ^ッナ^ガラ^スハ^ソレ^ヤホ^テテ^ニナ^イギ^ヤ。タ^ダウ^ニソ^ノヤ^ウニ^スバ^カリ^ギヤ^ンレ^ガ。
モ^シホ^ソノ^ナレ^ヤワ^シガ^方へ^ウシ^トズ^エカ^ケサ^ウナ^物チ^ヤワ^サテ[。]
ニ^のウ^イハ^ハリ^ハウ^レシ[。]そ^のい^ふと^云ふ^とさ^らう^とん^だ湯^うて^いを[。]
と^ハ一^部の^味を^知し[。]餘^材は^何の^事と^得る^ルか[。]と^も思^はれ^ル。
よ^ッナ^ガラ^スハ^ソレ^ヤホ^テテ^ニナ^イギ^ヤ。タ^ダウ^ニソ^ノヤ^ウニ^スバ^カリ^ギヤ^ンレ^ガ。
モ^シホ^ソノ^ナレ^ヤワ^シガ^方へ^ウシ^トズ^エカ^ケサ^ウナ^物チ^ヤワ^サテ[。]
ニ^のウ^イハ^ハリ^ハウ^レシ[。]そ^のい^ふと^云ふ^とさ^らう^とん^だ湯^うて^いを[。]
と^ハ一^部の^味を^知し[。]餘^材は^何の^事と^得る^ルか[。]と^も思^はれ^ル。
よ^ッナ^ガラ^スハ^ソレ^ヤホ^テテ^ニナ^イギ^ヤ。タ^ダウ^ニソ^ノヤ^ウニ^スバ^カリ^ギヤ^ンレ^ガ。
モ^シホ^ソノ^ナレ^ヤワ^シガ^方へ^ウシ^トズ^エカ^ケサ^ウナ^物チ^ヤワ^サテ[。]
ニ^のウ^イハ^ハリ^ハウ^レシ[。]そ^のい^ふと^云ふ^とさ^らう^とん^だ湯^うて^いを[。]
と^ハ一^部の^味を^知し[。]餘^材は^何の^事と^得る^ルか[。]と^も思^はれ^ル。

野^ノノ^ノノ^ノ

さぬき

神^ノノ^ノノ^ノと^さの^いふ^にひ^やら^しと^{して}い^はれ^るの^味を^知る[。]
○ソ^ノヤ^ウニ^メツ^タニ^人ノ^ニツ^テ入^ルテ^タレ^ニモ^カレ^ニモ^をフ^スカ^サニ^イニ^ハナ^ゲキ[。]
ガ^レゲ^ウナ^レテ^アラ^ウワ^イ。神^ノノ^ノノ^ノと^やら^しを^もて^あら^わす[。]
稻^掛大^平が^いく^くト^白ハ^飲ま^のき^と本^ホと^りて^その^本材^をげ^くて[。]
杜^ノノ^ノノ^ノと^やら^しと^{して}い^はれ^るの^味を^知る[。]
な^らけ^きの^味を^知る[。]
い^がい^とさ^らう^とん^だ湯^うて^いを[。]

人捕

飲^まの^きと^本ホ^とり^てそ^の本^材を^げく^て。

○イロノ歎キガ山ヲヤウニツモツ名バヤ、庄スバヒタモノツ臂杖ヲツイテツリ
ヲ傾ケルヤウニサナルワイ 本とら来てぶくして、道まが杖をつくともそを
よみ人あふげ

なげきをばあるはつみでわーひまのさうひさくねりぬぐらり
○玄成ニは根ニ歎キバツカリガツモツテ 比ウ其カヒモナイコニテアラウヤウニ思ハル、
人さうさうはなまをいとふあひめをわごささこそわびりかりん

○まゝあラニナウタヤウニジュツナイ意ヲシテソニツイツアルト云時モナイハサ
モ難義ナコトコソアレ 柄とあともさうささをもてあつてさうし。

ふひのよふぞて入ぬるみう月のふれてあめあつたあもあつたあ
○上 コノコロニアサテもくワリナイ相思ヒヲスルコトカナ

そふとてとせられバがつかくもれはあつひあつたあささきさうふ

○ドウシタガヨカラウカカウレタガヨカラウカト レウケテ定メニクイコヲイロクニ思案シ
テステヨイレウケテラツ思ヒツイテ サウヂヤト定メテ せむりニスバ 又一方ニサシ
ツカエガアリ 又思案ヲカヘテシテスレバ 又一方ニ支ルコトガアリ トカク世中
ノ事ハア、ドウモナラヌモノチヤ 一方ガヨケバ一方ガワレウテ 三の白比下小
とありとのふととをてらねしよふねしとせては何ともぶら
あつて餘材もはやくとふのほろを甚す案をいさふあがり、まま
その中れはなびとふをなげいさねをいさくたりなつた
○世中ノウイ夜ゴトニコレハトト思フテ人がオラナゲタナラ死骸ガオビ
タ、シウツモツテ泳イ谷ガサ浅ウナルデアラウワイは根ニウイコノ多イ世中ナレバ

左系ゆゑのり

よの中いふふととあやまらぬのふねらゆれを

○人ゴトニ世ノ中ハウイおぢヤクト云テ恨ミルサウ数万人ノ人ニ恨ミラ
ルノナレバ世中後ハサゾヤノイワクニ思ウデアラウ

よみ人あやま

何をちておれいづる老ぬる平のちもいむいどやきき

○オレハニア何ヲシテハヤウニ年ヨツタノヤラ
身ニツモツタ齡ノ思フトコロガサハツカシイ

にきこうぞ

オハもてつらさをたやももくはじつひわはくうらまるとあきく

○トテモ立オナドモエセバ此オハモウも 相ニシテ居ルチヤカセメテハ
心ハカリナリ凡 大切ニ持テステラシヤウニナルマイグワレテシウハドノ
ヤウニナルフトスドケルヤウニサ

ちりや

あし書のとふふがオハふりぬまどゆききぬおちをまら

○あオハ此ヤウニ年ヨツテトモカモ大ニチガウタケレ凡 心ハクワラシヌオテサ
ヤウハリ着イ時方ラヌワイ ちふふきぬらふ河のちとてく

よみ人あやま

うきのも嘆てれ梅のみまればやまきおのこくのつりあき

○梅ノ花ノ咲テチワテニウタ歌ヘナル実ハ酸イおぢヤガオレハも梅ノ実チ

ヤラテテ人が誰^のデモオレバスキモヤクト云 破^スきし好色^{スキ}とて
ほろやーがふおー一節ーとさるる日さる山の如ひか
さげぶらうらうら心^心をさるる

みつ子

うぐーらふまーらあきそと門のふれうひあさるる

○様ヨミ給ニ難義サウニアリナクナイ 今日の色リニあくモ法皇様
ノ伊幸ガウテハ山ノカウニニアカヒガアルデハナイカアリガタイ日チヤ
ゴヨ今日ハ

歌ろーん

よみ人あーん

そといひるのなごんまよりてうつやーとめのおれまぬまり

○此衣ハ世ヲイトウテ一所不^住ノ傍ノイツデモトコナリトユキカリニホノカ
ゲ立寄テハ常ナドモトカズツイニ候テ厚^厚ル五倍子^子漆ノ麻ノ衣デガヤル
うつやーとハ神代紀ニ全^{ウツ}剥^{ハキ}とある全^{ウツ}と目^メトくてそのまゝして
をりよまら候とらまは同じうつひきふ臥^スよハわん又おけふ五倍
子^子うつらあろ物^{モノ}うらあふらやとつふとあもいとまらー
全^{ウツ}剥^{ハキ}を五倍子^子ふつひけたつてと。俳諧^ハハまらと。

古今和歌集卷第二十を續

大歌原抄歌

ふかならひのうー

ゆづりしき年のとどめふか〜そを子年とて後てなりきこと(先

○行末千年ニテモ 毎年トシノ始メニハ ^三ハ色リニサタニイ事ヲ存分

ニシツサワロイ を入先ハ終りて極むと云 是先の時ハ子年まで

と云いしひてかくのて〜きつと云をつむと云ん

日本紀ハはく〜あ代までふ

ゆききやま〜まひ乃う

あ〜ゆふ〜き山よ〜若れま〜ぬく時〜かりかゆ〜

○上 葛城山ハ冬ハ雪ノフラヌト云ハナイガ ソノ葛城山ノ雪ノトホリデ

コニイソト云トモナニニジャウキウ君イカ思ヒテサテモ忘レヒミナイカナ

あ〜あ〜ゆり

あ〜あ〜ゆりあ〜あ〜ゆりあ〜あ〜ゆりあ〜あ〜ゆりあ〜あ〜ゆり

○近江カラ今般夜内ニ立テクバウ子野ニ鶴ガノクワサア夜ハモウアケルデ

みげ〜あ〜ゆり

みげ〜あ〜ゆりあ〜あ〜ゆりあ〜あ〜ゆりあ〜あ〜ゆりあ〜あ〜ゆり

○山城国ハ岡屋縣デ 妹トオレト藤テ夜ノアケタ今般ノアノ柔ノフリヤウ

ワイニア アノ柔ヲ見バ 昨夜ハキツウヒエタサウナ コチハ二人子タデコホド

ヒエル夜チヤトモ思ハナシデア ぬき〜あ〜ゆりあ〜あ〜ゆりあ〜あ〜ゆり

又古ふあを形と云〜あ〜ゆりあ〜あ〜ゆりあ〜あ〜ゆりあ〜あ〜ゆり

はのふ〜あ〜ゆりあ〜あ〜ゆりあ〜あ〜ゆりあ〜あ〜ゆりあ〜あ〜ゆり

あ〜あ〜ゆり

まをやくまびの中心あびふさつりちをさけ川のもれさやけさ

けさい味木のけべのまびのまのち すれまのちへ大嘗のふとまはか
んとつとをふる上とんとんと

みまさやえまのさし山さしりふつる名いたそド万代まをふ

これいあれとのけべのち他まのさし

みのふま乃ふち川たしをさしてまふつろくむらつよまをふ

ちとハえまのまびのみのかし

君がそまがさりもわしじせまのままこまねまよみつるまをふ

しとハにわのちべのいせのまのさし

ままのちねさし

道のちかふのふとそまねまのひてまをふまがらさハ

あまは今上のけべのけまのさし

东歌

みちのくさし

あふらふお方ばらわたりあけぬも君とばやらどゆまをふ

○アノアノ川へ房ガズウツト立テ夜ガアチ齊レ君ラヤルイソイナセテ又ニル

マデ待ツアヒガドモナラヌ まじか 初ニハハ花のゆまありまのまをふ

おは海ふうけまどりのかの原のまままをさるまをふ

すまは 竹根ふりままをさるまをふ

みちのくさしわをさるまをふのうさくまのつらまをふ

○奥州六トコニモカコニモ面白取ハホクアドモ 中デモけはが浦ヲ

アレ綱手デ船ヲ引テユクアノケレキガドウモイヘタ惣テハナイ オモ
シロイコトヂヤワデア

ミダゼラ成みやと小やアとし陸がまのまが此の時のもんぞをき

○コチノ人ヲ京ヘヤツテ 留守ヂウ イウモドラル、コヤラト 二三四

待テ居レバサテモ成シイ

をくらぎれ女門のこー傳の人をバ取の住ふいぶしとまき成

○アノま修ノニツノ小修ガ人ナラ 京ヘノミヤゲニイザ来イニテワシイ

ナウモナラ をくらぎれのをハをまのせまののをまて、ま修との土地を

みまきつひひうさことまうせま成女のあけ下あひあふとくわんじ

○オサカシ侍^ル ンレ^{オサカ}望^ルトヤレ上^ルサウシヤレハま成也ノ木カラオナルまハケレ

カラヌモノデ 雨ヨリモキツウヌレミスソエ

わがミ川のをまきぐらうらむぶひれつらあをわいびあの月をかり

○上 イヤデハナイガ 月月中ハドウモナラヌ

のちれどぐらうらひのぢりもあまばぐらうもあつとつふ

君とあまきそつて心をとらぐらうのまれま川山流もくらえらむ

○ドウエーガアラクテモ オマヘヲオイテワハ外へ心ヲウラスコトデハナイモシラン

ナ心ヲワシガ持ッダラ アノホノ松山ノウヘラ浪ガユルデアラウ フチヤハト

イナチヤサテ 木の松山とらうらまをえらうの木の松山をえし

さかぐらう

小よあまの成くらあけしつとあつひ免びぬまをわけよまをい

かひりし

ふいごのときやみもふんがきくもぬくもあらしやせうまの中心

○甲斐が嶺ヲハツキリトスタイモノヂヤアノサヤノ中山ガヨコタワツテ

アルデツカヘテハツキリトスエヌアノ心サイヤノ中山チヤ○小林三郎の父は世
と云はれし一平小
くせう又一平小せうともあつたりなり。赤らゆてんきもきねし之れだるの同じ
まののめ細なるらむとバタの二つのゆぎを一わづき保一古をふあをととやうとい
ふと云くせうこせうとのふせりなり。

甲斐が根を根こしこしと風をくちもがもやあつてや

○峯ヲコシ山ヲコシテ甲斐カ根ヲ吹テユル風ヲドウゾ人ニタイ相ヂヤナア
ソレタラ系へコトウケラシテヤラウニ けちも系よりわり居るふの目る
ふのもあつたし。影はふさふさし。上りみらのくち

みやまのほしとてさしゆもあつてしとせしとれ 笠紡
のほしかひひもひとてさしゆもあつてしとせしとれ 又まねも上りあ
ふよりしてさしゆもあつてしとせしとれ

いせりし

そこの浦ようそえりしあひあつたほのまももねびもねてか

○上 ナルナラザルトモカクモニアナデアラウトイツヨニ系テハナシラセウ

なるとハ父母らどもゆりして。影もまぬもあつた成物とをりし。

あつたものやうりりし

扇系 敏終終佳

らるるがもしやらの雅少ねよりけよあも色ハウリト

あし 稱^ニ流^ル本^ト之^ヲ本^ニ書^キ入^ル心^ヲ是^レ賦^ト今^ニ別^ニ書^ク之^ヲ
是^レ書^キ十^ノ物^ノ名^ヲ記^ス

むぐりー

はしゆき

とぬくもあまひくらいしはしひきめふのやぶむこびとらむあり

○杣人が材木ヲヒクサウチ アレコトガキウウヒイテ 大セイノ人ゴエガスルワ

左^ニ敷^ク云^フ下^ノ空^ノ際^{上^ニ}

うちおん

かまつても何をもうとすのきてもえむういほのちしめうしむを

○死^ニダス^ノ魂^ガワラヲ志^シテ又^カウテ来^テモ 何^ヲ見^ヤウツ^レ何^モ足^レ物^ハ

ナイ ジブシノ死^ニ骸^ハハイテシニウテ灰^ニナツタモノ

をうもるは本を別下

らまのおも

はしゆき

あしはとらひつをさばたがみあひうげふのそんくしとあか那

○ユ^ニフ^カタ^ニレ^バア[、]今^ハい^ハズ^フ人^ノ来^タジブシヤガト志^シウ思^フテ居^レバ

其人^ガヒク^スラ面^ヲ終^ニスエテサテモ今^コヲアルクヤウニスエルーカナ

あま利欠下

あまのわ

みやこ下

をのこすち

あまのわをそとやくもあまきみやこまへのあれかりりりり

○カラダ^ハ熾^キ火^ヲ居^テあ身^ヲヤクヨリモカナシイハ 京^ト嶋^ヘトノ別^レチヤウイ

ト白ハ、身ノ人乃、系ナリ。修ズシヨ、まきまき、人ノ中ノ
別をきとつて、なごし。

かゝるも、後、下

そえ、どの、あ、も、こ

何、や、ゆ、ら

く、記、め、を、ば、よ、と、め、し、の、こ、ぞ、の、が、も、ゆ、く、こ、の、ゆ、を、ら、山、の、ぬ、し、に

○ 趣、ラ、ハ、今、廿、中、ノ、ウ、イ、ヲ、バ、ト、ト、ノ、ガ、レ、テ、ヨ、ク、ア、テ、キ、ノ、イ、ウ、フ、ト、ハ、
引、紙、テ、ユ、キ、ス、何、を、し、ハ、海、く、ら、く、万、葉、ニ、小、さ、な、書、ハ、あ、を、
あ、な、り、と、し、ゆ、も、厚、く、ゆ、り、を、こ、ひ、ゆ、流、を、い、あ、り、ゆ、サ、
す、の、ど、し、但、一、條、敷、と、粟、田、と、ハ、何、の、縁、も、あ、ま、き、地、名、も、あ、ま、と、は、
ら、ひ、て、野、ふ、し、ら、る、い、ふ、の、信、如、天、を、の、ゆ、り、を、し、に、ゆ、り、と、その

く、ら、く、な、る、ゆ、り、下、し、され、た、の、縁、も、ま、ま、あ、て、な、れ、バ、後、の、
か、の、み、う、ど、の、ゆ、り、ふ、よ、く、され、バ、條、敷、と、粟、田、と、う、つ、縁、も、あ、ま、き、
け、ら、ハ、あ、の、を、た、み、う、ど、の、ま、め、の、ま、と、何、も、こ、へ、う、つ
こ、た、甲、^き、^は、^り、^の、^ま、^よ、^う、^ら、^る、^桂、^ふ、^下

巻、廿、一

奥、山、の、夏、の、根、志、の、ぎ、こ、う、^石、の、下

り、み、ん、と、さ、う、さ、う、ら、ハ、大、井、川、あ、が、り、こ、も、ふ、あ、と、し、づ、り、ら、る、こ

○ 今日、お、し、が、入、ヲ、悉、シ、ウ、思、フ、心、ハ、大、井、川、ノ、流、レ、ル、水、ニ、オ、ト、ラ、ヌ、ク、ラ、井、ガ、ヤ、ウ、イ

こ、れ、も、こ、ふ、あ、^石、板、山、の、志、の、ま、ま、き、ほ、よ、ハ、お、ど、も、く、ひ、し、こ、ら、う、ゆ

○ ^上 口、シ、ハ、色、ニ、モ、洞、ニ、モ、出、サ、ズ、ニ、心、デ、バ、ッ、カ、リ、マ、ア、悉、シ、ウ、思、フ、テ、ク、ラ、ス

サテモレニキナコトカナ

カキ第ナニ

あしはくハチコトを思ふ家のト

つぬうとれどこの山うらつちや川いさくよこごうあゆりさな

○モレ人カ問タナラ^上ソニナードウチヤカシラヌト云ガヤゾ必我名ヲモ

ラスデハナイグ オツ小万世ふのけあをとられたるやうくたぐり

訓もあがり万葉よあふいさくを寸許^{ナガ}余名告奈^{ラスナ}ト

あつらうとほしとさきとせいのいさくといふは同じ

はちあつらふあそのみうごのほあまのうへふ孫へこと

かつし

孫へのいそまらさる

ふしあのみあねのたまのまにふんのあつらぐコガあひええやも
まをオナレ

あつらふあそのみあねをて、ト

そとあつらふあめのひりりわてみうごをとひたてまうりて

コガせこがくづきいひあがりさくぶのふものあつらひいひてあつらふ

○コヨヒハ必出ガアラウト思ル、夜チヤ、アレアノ珠ノスル、テサウチヤトス、

ガサキ^{なめて}ヘヨウ^{カニ}ニル^{チヒサ}リア、味をさくぶといふ蟹^{カニ}小^{チヒサ}小^{チヒサ}き^{チヒサ}ト

你を父とて、またがねづけくむとなくむ、ト

あつら

道あつらばはくもゆきまきまのえのあふあつらふあつらふあつらふ

○道ヲシテ居ルナラ 住ノ江ノ巻ニエテアルトイフニテラワスル意ナラ
ツミニテモユカワ 其ノ之ニ美ノ多クハガクニシテガクニシ
ふまじき事ナラ 又ガクニシテハ集ルも入ルニシテ
ど又ガクニシテハガクニシテハガクニシテハガクニシテ
右ノハガクニシテハガクニシテハガクニシテハガクニシテ

を鏡六の志を以て

明治八年十二月廿日版權免許

著述者

度會縣平民

本居宣長

第九大區飯高郡松坂魚町五拾九番地

愛知縣平民

片野東四郎

第一大區四小區土屋町三丁目拾五番地

藏板人

